

## 1. 8月全国行事

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1)夏の省エネ総点検の日 | 8月1日       |
| 2)電気使用安全月間   | 8月1日～8月31日 |
| 3)防災週間       | 8月30日～9月5日 |

## 2. 熱中症予防対策について

## 3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

## 4. 他社の事故・災害事例から : ガラス器具装置が爆発して重傷

## 5. 今月のヒヤリハット

## 2. 熱中症予防対策について

平成25年度の職場における熱中症による死亡者数は30人と例年より多かつたこと、今夏も高温が予想され熱中症による労働災害の多発が懸念されることから、厚生労働省は、「平成26年の職場における熱中症予防対策の重点的な実施について」通達しました。

## &lt;重点実施事項の概要&gt;

## (1)建設業・警備業の重点実施事項

- ①事前にWBGT予想値・実況値や高温注意情報を確認し、基準値を超えることが予想される場合には単独作業は避ける、連続作業時間の短縮、長めの休憩時間設定等を行う。
- ②体調不良、下痢による脱水等の症状が顕著な者については、作業転換等を行う。
- ③朝礼等での注意喚起、頻繁な職場巡視、水分・塩分摂取表の作成。
- ④熱への順化期間を十分設ける。
- ⑤簡易屋根・扇風機・スポットクーラー等の設置、休憩場所の確保。・・・など。

## (2)製造業の重点実施事項

- ①身体作業強度に応じたWBGT基準値を超えることが予想される場合には、作業計画の見直し等を行う。
- ②水分・塩分の定期的摂取。・・・など。

WBGTとは暑熱環境による熱ストレスの評価を行う暑さ指数で、乾球温度・自然湿球温度・黒球温度から算出する数値のことです。

## 3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋) 福山工場

- ①緊急事態対応用品を施錠管理し、いつでも使用可能な状態にしている。
- ②工具置き場を工夫し、省スペースの工具箱を使用している。



#### 4. 他社の事故・災害事例から : ガラス器具装置が爆発して重傷

##### <災害のあらまし>

食品事業所の試験室で、女性作業員(23歳、経験4年)が、ガラス器具を組み立てて作成した精製装置で、添加剤を可燃性の溶剤に溶かし、ガスバーナーで加熱していた際、精製装置が爆発し、飛散した破片等で顔面並びに両手の指に重傷を負いました。

##### <災害の主な原因>

- ①精製装置の排気管が閉止状態になっていたために圧力が上昇し、急激な化学反応でガラス装置が割れ、噴出した溶剤の蒸気にバーナーの火が引火し、爆発したこと。
- ②作業手順書がなく、試験前の点検・確認方法等が決められていなかったこと。
- ③試験者が溶剤の危険性等を熟知していなかったこと、など。

##### <同種災害の防止対策 例>

- ①試験前に物性や危険性を調査、検討し、事故の予測を立てて試験計画を立てる。
- ②作業開始前に、安全装置(排気管・安全弁等)が正常に機能するかどうかを再確認する。
- ③精製装置は、排気管が開放されていない場合は、点火・加熱が出来ない構造の装置にする。
- ④爆発等の危険が予測される試験は、遠隔操作等が行えるようにする。
- ⑤試験の危険に適合した保護具等を使用する。
- ⑥作業手順書を作成し、それに基づいて教育する、など。

#### 5. 今月のヒヤリハット: 各事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

### 「なれは緩みに 緩みは事故に 初心忘れず 安全作業」

事例	薬剤を容器に入れ攪拌していたら、内容物の粘度が上昇し容器ごと回転した。
どこで	実験室で。
あらまし	薬剤を容器に入れ高速で攪拌していたら、薬剤の粘度が上昇し容器ごと回転して高温の液が飛び散った。ドラフト内で作業、保護具着用で大事にはいたらなかった。
原因	薬剤を攪拌する際、粘度が上昇することを予測できなかったこと。
教訓・対策	試験中は保護具を着用、また薬剤の攪拌等は、可能なかぎりドラフト内で行うこと

#### 6. その他

##### クールビズ期間中の節電について

今年も蒸し暑い季節になってまいりました。電力消費量が増加する夏季にむけて、空調機器の抑制的な稼働など節電対策に協力願います。

「出来ることから即実践、習慣付けよう省エネ職場」 H26年環境保全最優秀作品